

活 動 実 績 調 書

(1) 活動名	運動や体験をして身体と健康について学ぼう！～医療と介護で人々を支える仕事～
(2) 活動の目的・成果（※何を目指し、何が成果として得られたかについて記載）	
<p>愛知医科大学HIAMU（Heart In Aichi Medical University）と愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）の学生が、瀬戸の子どもたちのために協力し活動することによって、多くのことを生み出すことができると考え企画しました。その中でも最も大切なことは、両大学の学生が目指している将来のために得た知識によって、子どもたちに新たな学びを伝えることができるということです。それは子どもたちやそのご家族、そして両大学の学生にとっては、大きな喜びとなります。</p> <p>昨年度は、Zoomを活用し、オンライン形式で様々なテーマの講座を行いました。今年度は、ボランティア活動をするサークル・団体として、子どもたちと直接会って活動したいという気持ちが強く、十分な感染対策を行いながら、体を動かしたり体験をしてもらう対面の講座を加えて企画しました。また、医療や介護それぞれの観点から身体に関する仕組みについて知ってもらうとともに、医療や介護で人々を支える仕事について学ぶことで、将来、瀬戸の子どもたちがそのような仕事を目指すきっかけとなることを目的として取り組みました。</p> <p>その結果、以下のような成果を得ることができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが積極的に講座に参加してくれたため、医療や介護について学ぶことができたと思います。「医者というお仕事を知ろう！」では、医者の仕事に興味を持ってもらい、子どもたちから将来医者を目指したいという言葉が聞かれました。そして、その気持ちを保護者の方も知ることができたのは、とても良かったと思います。「介助犬を知ろう！」では、説明とデモンストレーションを通じて、介助犬がどのような犬なのか、介助犬を見かけた時に自分たちはどのように接すれば良いのかを知ってもらえたと思います。 「熱中症について知ろう！」では、曲に合わせてダンスをする際に、子どもたちが楽しめているのか不安な時もありました。大きな動作や掛け声で盛り上げ、周りの職員さんも巻き込み、全体で楽しい雰囲気を作り出したところ、子どもたちも徐々に楽しく踊ってくれました。マスクをしていて、お互いの表情が分かりづらいこともありますが、子どもたちを楽しませるには、まずは自分たちが楽しむ必要があると感じました。自分たちが楽しそうにすれば、子どもたちも楽しいことだと感じ、一緒になって楽しめることが分かりました。 小学校低学年から高学年の子どもたちを対象としており、理解度が皆異なる中で、子どもたちに伝わり易い表現について考えることができました。これは、医者が患者さんに分かり易い表現を使うように心掛けることと同じスキルであり、私たち自身も大変勉強になりました。 参加者の中には、障がいのある子どももいました。障がいのある子どもたちと触れ合う機会は減多になかったため、子どもとの関わり方や伝わりやすい発表の仕方など、今までとは違う観点から学ぶことができました。また、臨機応変に対応する力も養うことができました。この経験は、将来医者や看護師になってからも活かせるのではないかと感じました。 	
(3) 活動の実施内容（※活動の実施方法、時期、場所、回数、市民等への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	

2022年8月27日（土）は、Zoomを活用したオンライン講座、2022年10月15日（土）と11月5日（土）は、パーティセと4階マルチメディアルームで対面の講座を実施しました。申請時に計画していた9月の活動は、新型コロナウイルス感染拡大により延期となり、11月に実施しました。

各回の前に両大学の学生間でオンラインミーティングを行い、講座内容を決め準備し、リハーサルを行ったうえで講座に臨みました。

① 活動日：2022年8月27日（土）10時30分～11時15分 「医者というお仕事を知ろう！」

開催方法：オンライン（Zoom）

参加者：4名、参考資料：記録写真、チラシ

将来、愛知医科大学生が目指している医者が、実際にどのような仕事をしているのかを分かりやすく説明しました。また、手洗いの重要性を楽しく学んでもらうため、オリジナルで作成した手洗い動画を見ながら、一緒に正しい手洗いの仕方について実践しました。質疑応答では、子どもたちから「医学部に入るためにどれくらい勉強をしたのか」や「医学部の部活は何があるのか」といった質問がありました。この講座に参加してくれた理由を聞いたところ、「将来医者に興味があるから」等の声が上がりました。

開催にあたり、オンラインミーティング（8月12, 16, 18, 25日）及び適宜情報共有を行いました。

- ・ 自己紹介
- ・ 愛知医科大学・病院について
- ・ 選択クイズ（① 愛知医科大学病院にある乗り物はどれでしょう、② 夜遅くにお腹が痛くなったらどうすればいいでしょう、③ 医者が働いている場所はどこでしょう、④ 医者は一日で何人の患者を診るでしょう、⑤ 医者は歯医者になることができるでしょうか、⑥ 医者は給料ランキング何位でしょう）
- ・ 医大生の学校生活について（医大生の勉強する科目、医大生の時間割など）
- ・ 手洗い動画視聴（「バイキン大王をやっつけよう！！」（愛知医科大学H I AMU作成）
- ・ みんなで手洗いの仕方を復習し、曲に合わせて実践
- ・ 質疑応答

② 活動日：2022年9月17日（土）「熱中症について知ろう！」

開催方法：対面（パーティセと4階マルチメディアルーム）

参加希望者：6名

初の対面講座に向けて、愛知淑徳大学と何度も情報共有を重ねました。オンラインミーティングでは、作成したパワーポイントを全員で共有し、修正点について意見を出し合ったり、どんな材料で経口補水液を作るかについて話し合いました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、大学の課外活動制限を受け、開催2日前に中止を余儀なくされました。両大学で入念な準備をしてきた中での中止は、大変悔しい思いでした。講座を楽しみにしてくれていた参加希望者のためにも是非実現したいと考え、参加希望者との調整を行ったうえで、11月に延期することにしました。

開催にあたり、オンラインミーティング（9月5, 7, 12, 14日）及び適宜情報共有を行いました。

③ 活動日：2022年10月15日（土）14時～15時30分 「介助犬を知ろう！」

開催方法：対面（パーティセと4階マルチメディアルーム）

参加者：10名、参考資料：記録写真、チラシ

介助犬の仕事や介助犬と一緒に暮らす方々の気持ちを学ぶための講座を実施しました。日本介助犬協会の職員をお招きし、実際に目の前で介助犬のデモンストレーションを行い、子どもたちにも体験してもらいました。体験後は、介助犬クイズで講座内容の確認を行い、介助犬リーフレットを作成した後に復習を行いました。

開催にあたり、オンラインミーティング（10月13日）及び適宜情報共有を行いました。

- ・ 自己紹介
- ・ 介助犬の説明
- ・ 盲導犬・聴導犬との違いについて
- ・ 介助犬への接し方
- ・ 介助犬デモンストレーション, 体験
- ・ 介助犬クイズ
- ・ 介助犬リーフレット作成
- ・ まとめ
- ・ 記念撮影

④ 活動日：2022年11月5日（土）14時～15時15分「熱中症について知ろう！」（9月17日延期分）

開催方法：対面（パルティセと4階マルチメディアルーム）

参加者：7名，参考資料：記録写真，チラシ

どうして熱中症になってしまうのか，ならないためにはどうすればいいのかについて分かりやすく説明しました。熱中症対策ドリンクとして，経口補水液を一緒に作りました。また，コロナ禍で運動量が減っている子どもたちと一緒に音楽に合わせてダンスを行い，水分補給のタイミングなど熱中症予防の実践を楽しく学びました。

開催にあたり，オンラインミーティング（10月31日）及び適宜情報共有を行いました。

- ・ 自己紹介
- ・ 熱中症とは
- ・ どんな症状がでるのか
- ・ 熱中症を予防するには
- ・ 水分の必要性
- ・ 一緒に経口補水液を作ろう
- ・ ペットボトル工作
- ・ リズムダンス練習
- ・ リズムダンス実践

<市民への周知方法>

- ・ 「広報せと」への掲載
- ・ 瀬戸市内の公共施設※1へのチラシ配布（各30部）
- ・ ホームページ※2への掲載
- ・ SNS等※3への掲載

※1 瀬戸市立図書館，情報ライブラリー，ノベルティ・こども創造館，せとっ子ファミリー交流館，交通児童遊園，子ども・若者センター，やすらぎ会館 プレイルーム/おもちゃ図書館，放課後学級

※2 瀬戸市立図書館，せとっ子ネット

※3 瀬戸市スマートフォン用アプリ「せとまちナビ」，瀬戸市公式LINE

（4）活動実施上の工夫（※活動の趣旨・目的達成のため、特に創意工夫した点について記載）

昨年度は参加者が少ない講座もあったことから、より多くの瀬戸の子どもたちに学びを伝えたいと思い、周知方法を試行錯誤しながら検討しました。広報せとへの掲載や瀬戸市内の公共施設へのチラシ配布だけでなく、今年度から瀬戸市情報政策課や瀬戸市シティブロモーション課の協力を得て、瀬戸市スマートフォン用アプリ「せとまちナビ」や瀬戸市公式LINEを活用しました。また、申し込み方法をメールだけでなく、QRコードを活用しスマートフォンからでも手軽に申し込みできるような工夫を行ったことで参加者の増加に繋がったと考えています。

各講座では、以下のような工夫をしました。

① 活動日：2022年8月27日（土）10時30分～11時15分 「医者というお仕事を知ろう！」

昨年度のオンライン講座では、参加者からパワーポイントにふりがながあると分かりやすいとの指摘をいただきました。今年度は、オンラインミーティングで指摘内容の改善を行い、手洗い動画に関しては、音量の大きさやパワーポイントから動画にスムーズに画面共有できるような操作等の入念な打合せ・リハーサルをしたうえで本番に臨みました。

オンライン上でも子どもたちとコミュニケーションを図れるように、クイズ形式を中心に行うことで、一人一人が参加しているという意識を持てるように工夫をしました。また、子どもたちだけでなく保護者も楽しめるように、簡単な説明の中に大人でも意外と知らないような内容を加える工夫もしました。講座の最後には、医者や医学生について聞きたいことを子どもたちに問いかけたところ、様々な質問がありました。また、講座に参加してくれた理由を問いかけたところ、漫画のブラックジャックを読んで医者に興味を持ったことなど保護者が知らない子どもたちの一面を引き出すことができました。何より将来医者を目指したいという子どもたちがいることを知ることができて大変嬉しく思いました。

② 活動日：2022年10月15日（土）14時～15時30分 「介助犬を知ろう！」

初の対面講座ということで、直に子どもたちに会えることを大変楽しみにしていました。開催に向けて、両大学で打合せを行い、日本介助犬協会との調整も綿密に行いました。当日の感染対策として、入室する前の検温・手指消毒だけでなく、体調報告書を作成し、参加者に記入していただきました。会場には子どもだけでなく保護者もいるため、できるだけ人と人との間隔が空く座席配置を行いました。

講座の中では、せっかくの機会ですので、子どもたち全員に介助犬のデモンストレーションを体験してもらいました。知識だけでなく、実際に体験してもらうことで、学びを深めていただけたと思います。介助犬リーフレット作成では、3つのグループに分かれて、各テーブルに学生がサポート役として付き、子どもたちとコミュニケーションを図りながら取り組みました。最後に講座で学んだ知識を復習できるように介助犬リーフレットを穴埋め方式にしており、皆で一緒に考え完成させました。

今回参加された方から以下のような感想をいただきましたので紹介します。

介助犬と触れ合える機会はなかなかないので、参加できてとても嬉しいです。子どもは作ったリーフレットを見ながら、同じようなものを作って友だちに配っているようです。日本介助犬協会に「ママ、ボランティア登録しておいてね！」とも言っています。親子で積極的に参加したいと思っています。貴重な学びの機会をいただきありがとうございました。

③ 活動日：2022年11月5日（土）14時～15時15分「熱中症について知ろう！」（9月17日延期分）

熱中症は夏のテーマですが、水分補給については季節問わず必要な知識であることから、9月に新型コロナウイルス感染拡大のため開催できなかった講座を11月に延期して開催しました。また、水分補給のタイミングを実践するために運動をして身体も動かしました。

今回参加されたのは、「放課後等デイサービスなも」の子どもたちでした。障がいのある子どもたちに対して、講座では、ゆっくり大きな声で話すこと、経口補水液作りを簡単にすること、パワーポイントのスライドを見やすいように文字を大きくしてイラストを多く入れることなどを特に意識しました。また、工作を

する際には、なるべく親しみやすいように子どもたちの目線に合わせてコミュニケーションをとることを心掛けました。

講座では、熱中症についての説明を行った後、子どもたちと一緒に経口補水液を作りました。作った経口補水液は、感染対策上飲めないため、経口補水液の作り方をまとめた冊子と市販の経口補水液（OS-1又はポカリスエット）をプレゼントしました。講座後半は、運動をするためにリズムダンスを練習しました。一つ一つの動作を真似できるように、曲のテンポを落として、子どもたちが理解しやすいように工夫をしました。また、楽しめる要素を加えるために、ペットボトルの中にビーズを入れた音の鳴るペットボトルを準備しました。子どもたちには、そのペットボトルに様々な色のテープを貼ってオリジナルのペットボトルを作ってもらい、リズムダンスを覚えた後に、ペットボトルを持ったままダンスを実践してもらいました。動きと音を組み合わせることで、子どもたちに強い興味を持ってもらうことができました。

（５）活動実施上の反省点（※具体的な反省点等について記載）

活動をするうえで、参加者の集客に大変苦勞をしました。本活動に興味を持ってもらえるように、広報に関しては試行錯誤し工夫を重ねました。今後は、もっと興味を引き付けるような活動内容を考え、それを子どもたちが集まるような環境で実施できるように検討していきたいです。

オンライン講座では、子どもたちの表情や反応が分かりにくいため、双方向の交流ができるような工夫が必要です。子どもたちと話すのが質疑応答だけだったので、フリートークができる時間を設ける必要があると感じました。対面の講座では、子どもたちが想像以上に積極的に参加してくれたので、講座中に静かになるまで待つべきなのかが分からず、進行において、対応方法を考えておくべきでした。また、過去の活動内容が分からず一から考えることがあり大変でしたので、今回の活動記録を今後に向けて残しておく必要があると感じました。